

環境水道委員会 所管事務調査「ライフラインの強靱化について」

○ 上下水道局の「ライフラインの強靱化について」の取組み

【1 上下水道事業を取り巻く状況】

近年、人口減少などに伴う水需要の低下や、経年による施設の老朽化、さらには平成28年熊本地震、平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月豪雨、令和元年東日本台風及び令和2年豪雨などの発生により、災害対策の重要性が再認識されるなど、事業を取り巻く環境は一層厳しさを増している。

また、気候変動の影響による自然災害の激甚化・頻発化や、大規模地震の発生が切迫する状況を受け、国が、令和2年12月に「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を閣議決定し、上下水道分野においても、災害に強い強靱な国土づくりに向けて、浸水対策や耐震化対策、老朽化対策など様々な対策が示された。

こうした状況を踏まえ、上下水道局では、将来にわたって安全・安心で安定した上下水道事業を続けていくため、令和3年3月に「北九州市上下水道事業基本計画2030」及び「北九州市上下水道事業中期経営計画2025」を策定したところである。

【2 ライフラインの強靱化に向けた取組み】

現在、基本計画に掲げた基本理念『お客さまに信頼される上下水道～安全・安心な水環境を次世代へ～』及び7つの将来像を実現するため、中期経営計画に基づき、17重点施策と41実施事業に取り組んでいる。

その中で、目指すべき将来像1に掲げた「市民生活を支える強靱な上下水道をつくる」ため、上下水道施設の長寿命化と改築・更新、豪雨対策の拡充・強化、震災対策の拡充・強化などのハード対策や、危機管理体制の充実・強化、効果的な広報・広聴活動の推進などのソフト対策に取り組んでいる。

【3 今後の取組み】

今後も、安全・安心で安定的な上下水道事業を続けていくとともに、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を推進し、災害時においても市民生活に不可欠なライフラインである上下水道を維持するため、その強靱化を着実に図っていく。